

(資料2)

情報システム導入時の業務フローモデル

－ 目次 －

1	用語の定義	61
2	業務フローモデルの前提条件	62
3	ロールの定義	66
4	プロセス概要図（薬剤部門）	67
5	プロセス概要図（手術部門）	68
6	業務フローモデル（薬剤部門）	69
7	業務フローモデル（手術部門）	82

1 用語の定義

(1) 診療部門、診療支援部門

- ・診療部門
 - － 外来、病棟など、診療を行う部門のこと。
- ・診療支援部門
 - － 薬剤部門、手術部門、検査部門（検体検査）、検査部門（生理機能検査、放射線検査）、輸血部門、栄養部門、地域医療連携室など、診療を支援する部門のこと。

(2) 器材

- ・手術を行うための、メス、はさみ、鑷子などの器械や、カテーテル、埋め込み器具などの医療材料のこと。

(3) 通常行なわれる手術

- ・手術実施の前日など、院内で定められた所定の締め切りまでに予約され、実施される手術。

(4) 緊急手術

- ・院内で定められた所定の締め切り以降に予約され、実施される手術。昼間に実施される場合と、休日および夜間に実施される場合では、担当医から手術室、手術室から手術スタッフへの連絡経路が異なる場合がある。

(5) 回診の定義

- ・入院診療において医師が受け持ちの入院患者を病床で診察すること、その目的で病室を廻ること

(6) 患者情報の定義

- ・患者基本情報
 - － 患者を特定するための情報で、患者番号、氏名、性別、生年月日など。
- ・患者保険情報
 - － 患者の健康保険に関する情報。労災保険、公害補償、公費、自費を含む。
- ・患者プロフィール
 - － 直接の診療対象ではないが、診療上必要な情報で、体重、血液型、感染症アレルギー、妊娠、嗜好、既往歴、家族歴など。

2 業務フローモデルの前提条件

(1) 病院全体に関する前提

1) 情報システム化に関する事項

- ・ 薬剤部門システム、手術部門システムが導入されている。
- ・ 電子カルテシステムが導入され、各部門システムと接続されている。
- ・ ベッドサイドには電子カルテシステムの端末が配置されている。
- ・ 患者本人確認には患者タグ（リストバンド、IC チップ等）を用いる。
- ・ 薬剤（点滴のボトルや薬袋）や輸血用血液等にはバーコードが貼られ、情報システムに情報を取り込むことができる。
- ・ 同意書等、患者の署名が必要なものについては紙の帳票を出力する。
ただし、情報システムには同意書の内容と患者が同意した旨の記録が行われる。
- ・ 職員の署名が必要な場合は電子署名を用いて行う。
- ・ 検査結果のデータは検査部門システムで管理するが、一部のデータについては電子カルテシステムのデータとして取り込む。

2) モデル上の帳票に関する扱い

- ・ 帳票が複数枚組で構成され目的別に使用される場合、モデル上では別の帳票が同時に記入、搬送されているものとして扱う。

3) 各部門の機能および運用

- ・ 外来
 - － 診察を行い、処方オーダーや手術オーダー、検査オーダーなどの各種オーダーを行う。
- ・ 病棟
 - － 回診を行い、処方オーダーや注射オーダー、手術オーダー、検査オーダーなどの各種オーダーを行う。
 - － 薬剤部門から払いだされた薬剤の投薬を行う。
 - － 手術前の患者に対するオリエンテーションや、手術前日及び当日の手術準備、手術前後の病棟・手術室間の移動介助を行う。

4) 回診

- ・ 看護師が同行する場合がある。
- ・ 通常、回診車の準備は看護師が行うが、単独で回診する場合など医師が行う場合がある。
- ・ 回診する患者の順序については、患者の清潔度（感染症等）を考慮して決定す

る。

- ・時間のかかる検査や処置は、回診後に再度患者を訪れるなどして別途実施する。
(必要なら検査室、処置室に移動して実施)
- ・手術後の回診（執刀医、麻酔医）も一般の回診プロセスの対象となる。
 - ・医師はベッドサイドの電子カルテシステムを操作して診療記録、検査結果等の確認や、患者状態、実施内容の入力を行う。

(2) 薬剤部門に関する前提

1) 情報システム化に関する事項

- ・分包機が導入されている。
- ・分包機の機能
 - － 患者名、用法、分包数を入力。
 - － 投入された薬剤を、入力された分包数に従い、分包紙に分包。
 - － 患者名、用法を分包紙に印刷。
- ・情報システムと分包機は接続されており、処方オーダー情報に基づき分包機を作動させることができる（人手による分包機への入力操作は行わない）

2) 処方・注射

- ・薬剤搬送
 - － 病棟への薬剤搬送は薬剤部門の職員が担当する。
ただし、緊急・至急オーダーの場合は、看護師が薬剤部門を訪れる場合がある
(処方オーダー、注射オーダーは後入力される場合がある)
- ・注射の準備
 - － 指示薬剤の混注は看護室で行う。
- ・処方・注射の変更と中止
 - － 変更オーダー・中止オーダーを入力する。
 - － 残薬がある場合は病棟から薬剤部門に返却する。ただし、安全を確保する目的から、一度患者に渡した薬剤は回収しない。
 - － 混注等が済んだ薬剤の廃棄は病棟で行うが、その処理は薬剤部門を通して行う。
- ・内服薬の保管
 - － 薬剤部門から病棟に搬送された後、
 - ・看護師管理薬剤 … 薬袋に入った状態で保管する。

- 患者管理薬剤 … 薬袋に入った状態で患者に渡す。
- 看護師管理薬剤は実施当日に服用単位に仕分けして、患者単位に保管する。
- ・ 定置薬
 - 部門ごとにその薬剤が定置薬であるか否かが決定されている。
 - 定置薬は管理台帳と薬の残量をもとに薬剤部門が管理し、定期的に補充する。
- ・ 麻薬
 - 内服・外用、注射を対象とする。
 - 実施後は投与量などの記録を行う。
 - 注射の実施後は所定のタイミングで空アンプルを薬剤部門に返却する。
 - 内服・外用の場合、指示された期間が終了した時点で薬剤部門で実施記録を確認し、麻薬が正しく使用されたことを確認する。

3) 処方鑑査

- ・ 承諾書は鑑査時に薬剤部門で保管されている場合とされていない場合の両方を想定する。
- ・ 承諾書が必要な薬剤
 - 副作用の強い医薬品については、院内規定により承諾書が必要である旨が決められている。
- ・ 期間指示された注射せんは、初回の取り揃え時だけではなく、2回目以降も処方鑑査を行ってから取り揃えが行われる。

4) 調剤

- ・ 内服薬、外用薬と同様に注射薬についても「調剤」という用語を使用しているが、これには、病棟で行われる混注は含まず、薬剤部門内で行われる注射薬の取り揃え等の作業のみを示すこととする。
- ・ 注射の取り揃えは、注射せんにもとづいて患者ごとに一回のオーダー単位で行なわれる場合と、病棟単位に薬剤別に行われる場合がある。
- ・ 処方オーダーの場合と、注射オーダーの取り揃えが一回のオーダー単位で行なわれる場合は、処方鑑査を行った直後に調剤作業を行う。
- ・ 特定の薬の場合は、院内にて調剤し、患者に対して払い出す。
- ・ 液剤、外用液剤には消毒薬、吸入薬が含まれる。

(3) 手術部門に関する前提

1) 情報システム化に関する事項

- ・心電計、パルスオキシメーターなどの一般的な医療機器は、導入されている場合を想定する。

2) 手術部門の構造

- ・手術部門の構造として、「手術室」および「前室」があり、前室で患者を受け渡すものとする。

3) 麻酔

- ・麻酔の種類は、局所麻酔、腰椎麻酔、硬膜外麻酔、全身麻酔を想定する。

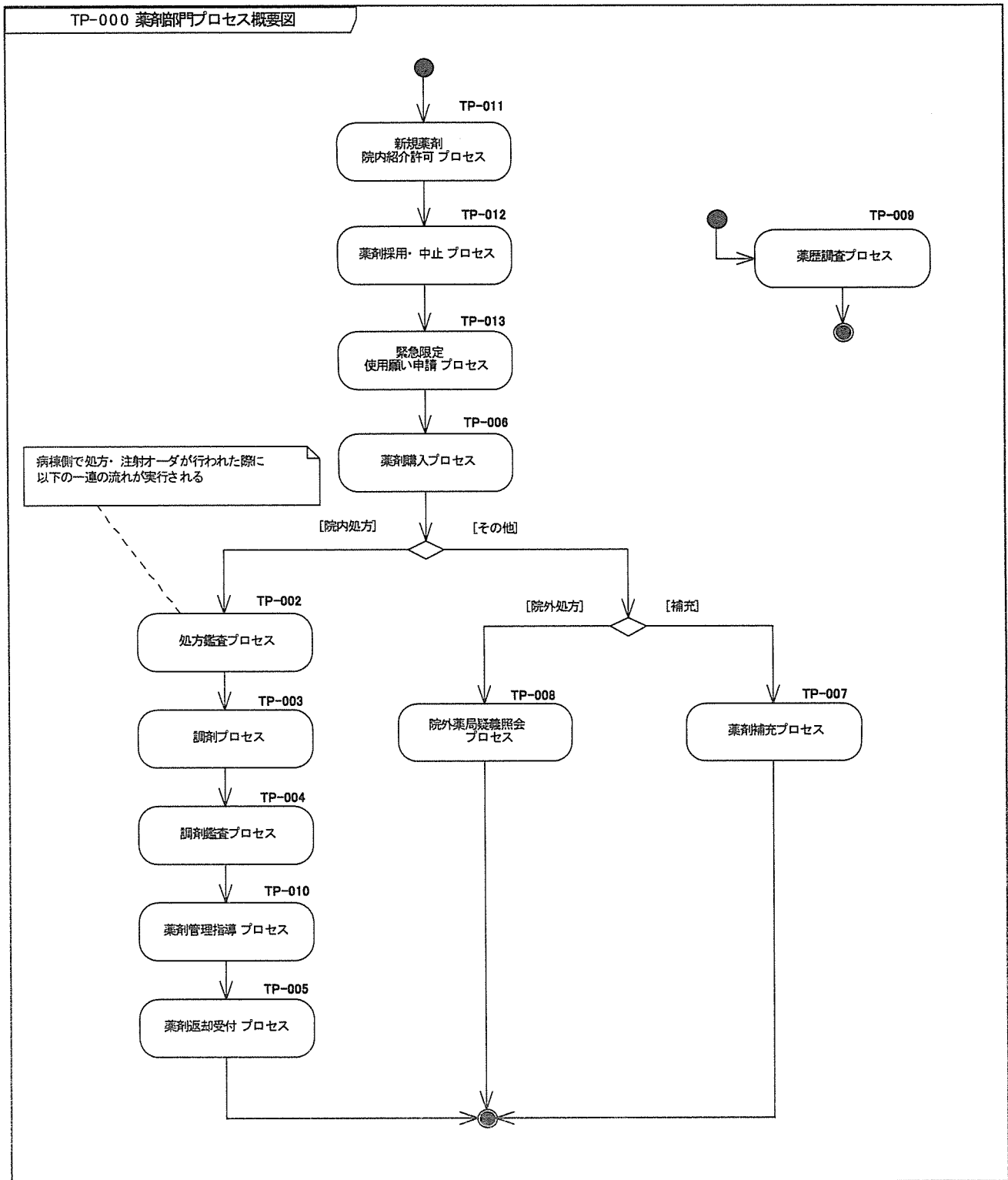
4) 手術室・設備の予約

- ・外来および病棟には診療科別の手術予約枠が公開されている。手術オーダー時に当該診療科の予約枠に空きがない場合は、診療科内部での調整を行う。診療科内部で調整が見つからない場合は、他の診療科との調整を手術部門看護師に依頼する（ただし通常、手術実施の一週間以上前に他の診療科との調整を行うことはない）。
- ・手術実施の一週間前には、予約された手術に対して部屋と設備を確定させる。
- ・手術の数日前には、予約された手術に対して、担当する手術部門看護師や麻酔医を確定させる（手術部門リーダ看護師が手術部門看護師を、麻酔科部長が麻酔医を当該手術に割り当てる）。

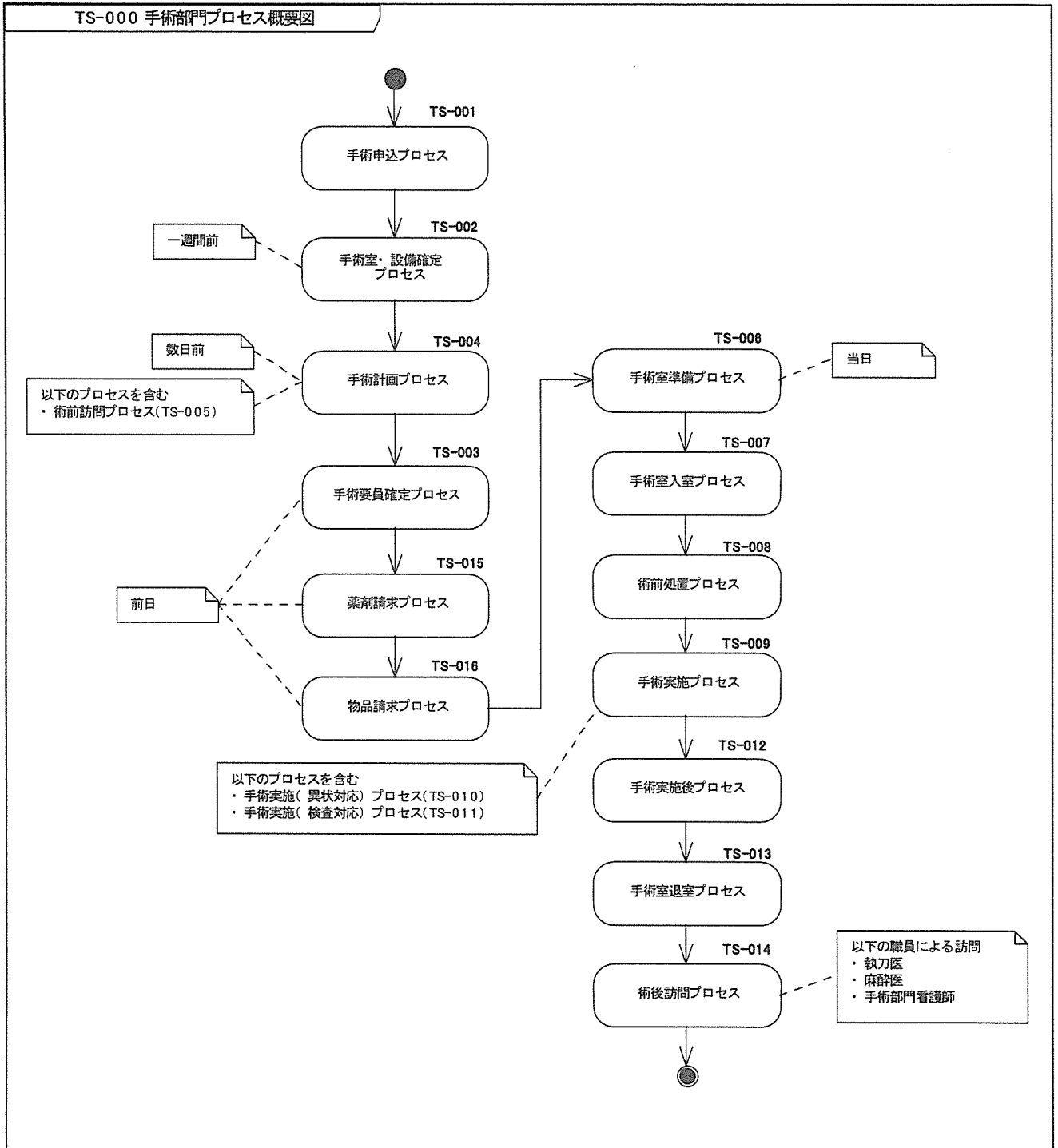
3 ロールの定義

No.	ロール名	定義
1	病棟職員	病棟において医療事務を担当する職員の総称
2	返却薬剤搬送係	病棟から薬剤部門に返却する薬剤を搬送する職員
3	薬剤師	医師の処方に基づき調剤、鑑査、服薬指導等を行う資格を持った職員
4	処方鑑査係	処方オーダー、注射オーダーの内容を鑑査する
5	調剤係	医師の処方に基づき調剤を行う
6	調剤鑑査係	調剤係が行った調剤を鑑査する
7	返却薬剤受付係	病棟から搬送されてきた返却される薬剤を、薬剤部門にて受け付ける
8	薬剤購入係	不足している薬剤や、購入依頼のあった薬剤を納入元に発注し、受入れを行う
9	薬剤補充係	カートの消費量や、各部門からの請求に基づき、薬剤を補充する
10	疑義照会受付係	保険薬局からの疑義照会を受け付け、医師に伝達する薬剤師
11	薬歴調査係	患者の薬歴を調査する
12	薬剤管理指導係	患者管理の薬剤の服用方法を、患者に指導を行う
13	薬剤部門長	薬剤部門の責任者
14	医師	外来および病棟での診察および回診や、手術などの診療を行う
15	担当医	外来および病棟において患者を担当する医師
16	外来担当医	外来において患者を担当する医師
17	病棟担当医	病棟において患者を担当する医師
18	薬剤採用・中止申請者	新規に採用したい薬剤や、採用を中止したい薬剤の申請を行う
19	執刀医	手術における術者
20	麻酔医	手術において麻酔を担当する医師
21	麻酔科部長	麻酔科の責任者
22	看護師	外来および病棟において診療に携わる
23	手術室看護師	手術部門での診療に携わる看護師
24	手術室リーダー看護師	チーム制をし手術室部門で、リーダーの役割を担う手術室看護師
25	外回り看護師	手術において、術野に直接関わらない範囲の看護を担当する
26	器械出し看護師	手術において、術者が必要とする器械を準備し、術中に手渡す
27	外来患者	通院の形態で診療を受ける患者
28	入院患者	入院の形態で診療を受ける患者
29	保険薬局	院外処方の際に、患者に薬剤を調剤し払い出す
30	病院長	病院の責任者
31	薬事委員会	薬剤師や医師、およびその責任者により構成され、薬剤の採用・中止を決定する
32	検査技師	検査部門において検査の実施および検査結果の管理を担当する資格を持った職員。 輸血オーダーに基づき、輸血部門で交差試験の実施を担当する検査技師

4 プロセス概要図（薬剤部門）



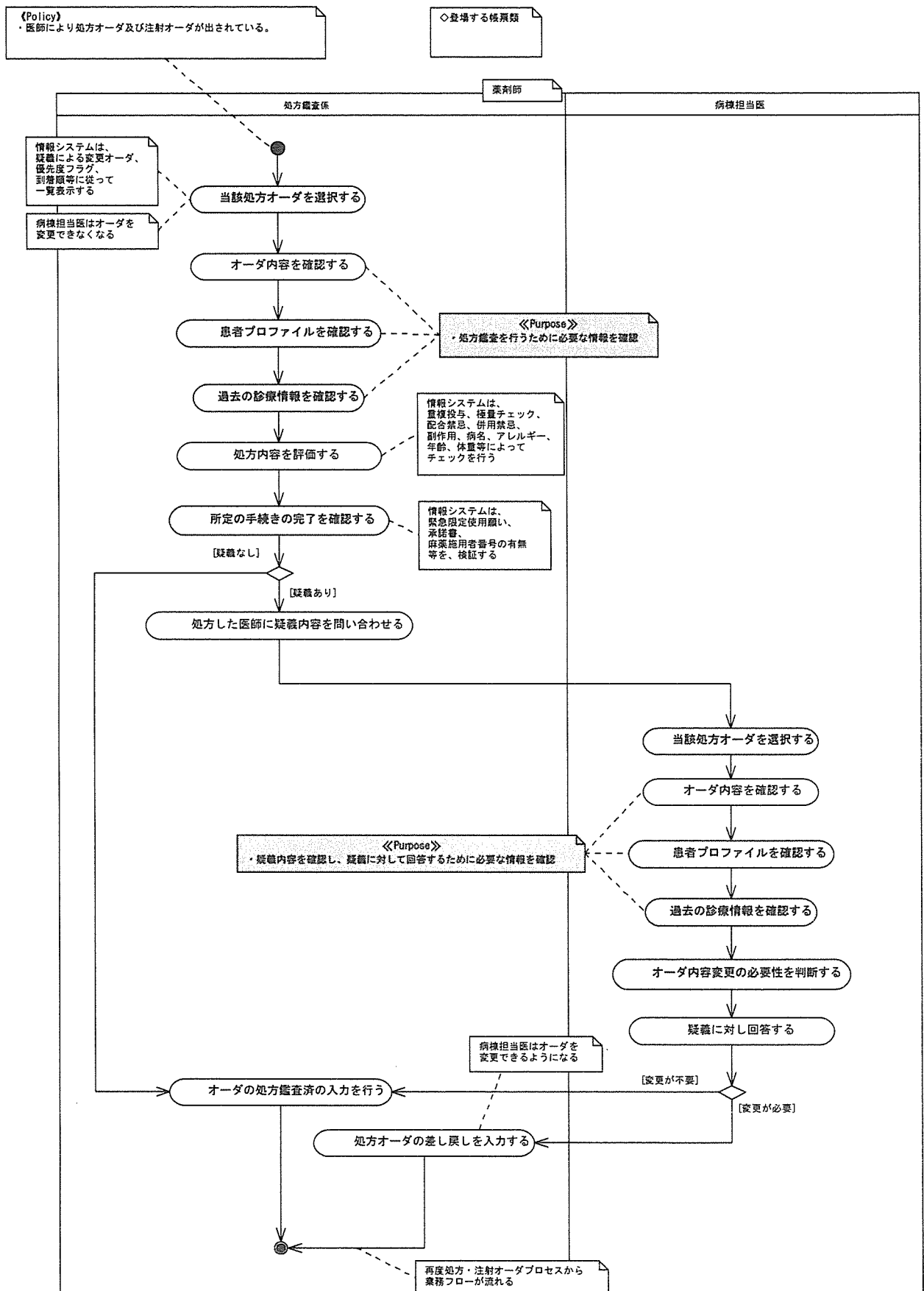
5 プロセス概要図（手術部門）

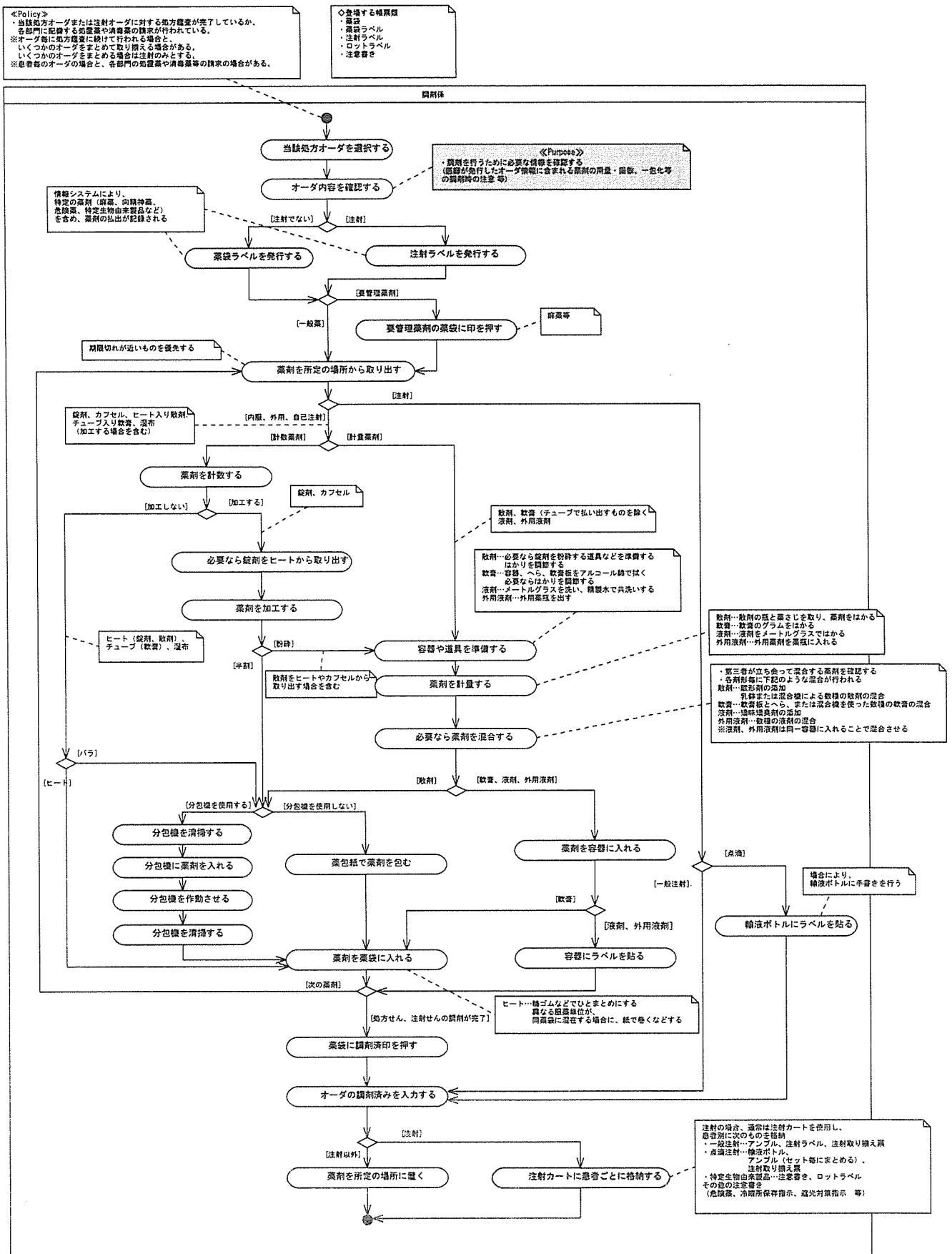


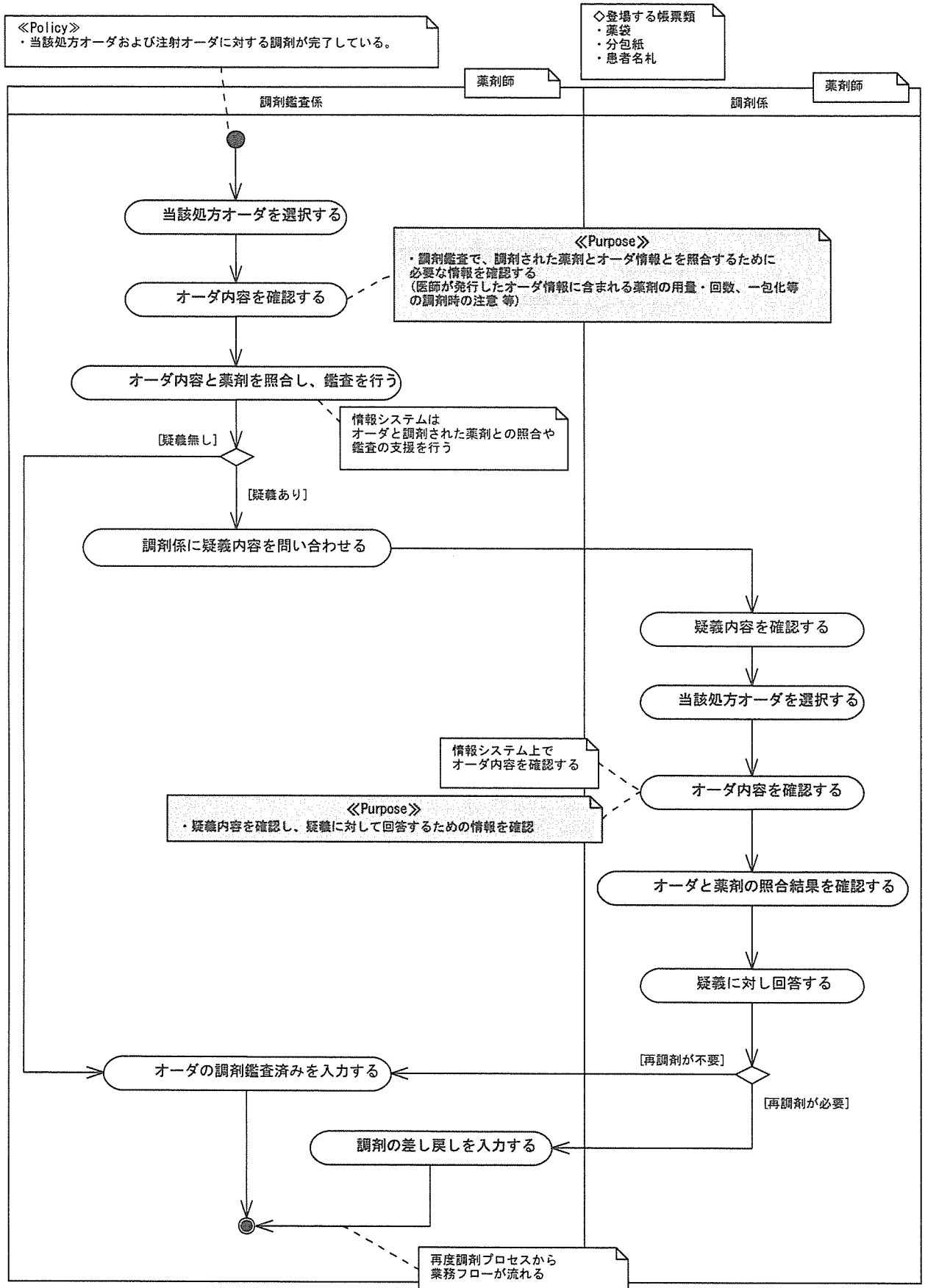
6 業務フローモデル（薬剤部門）

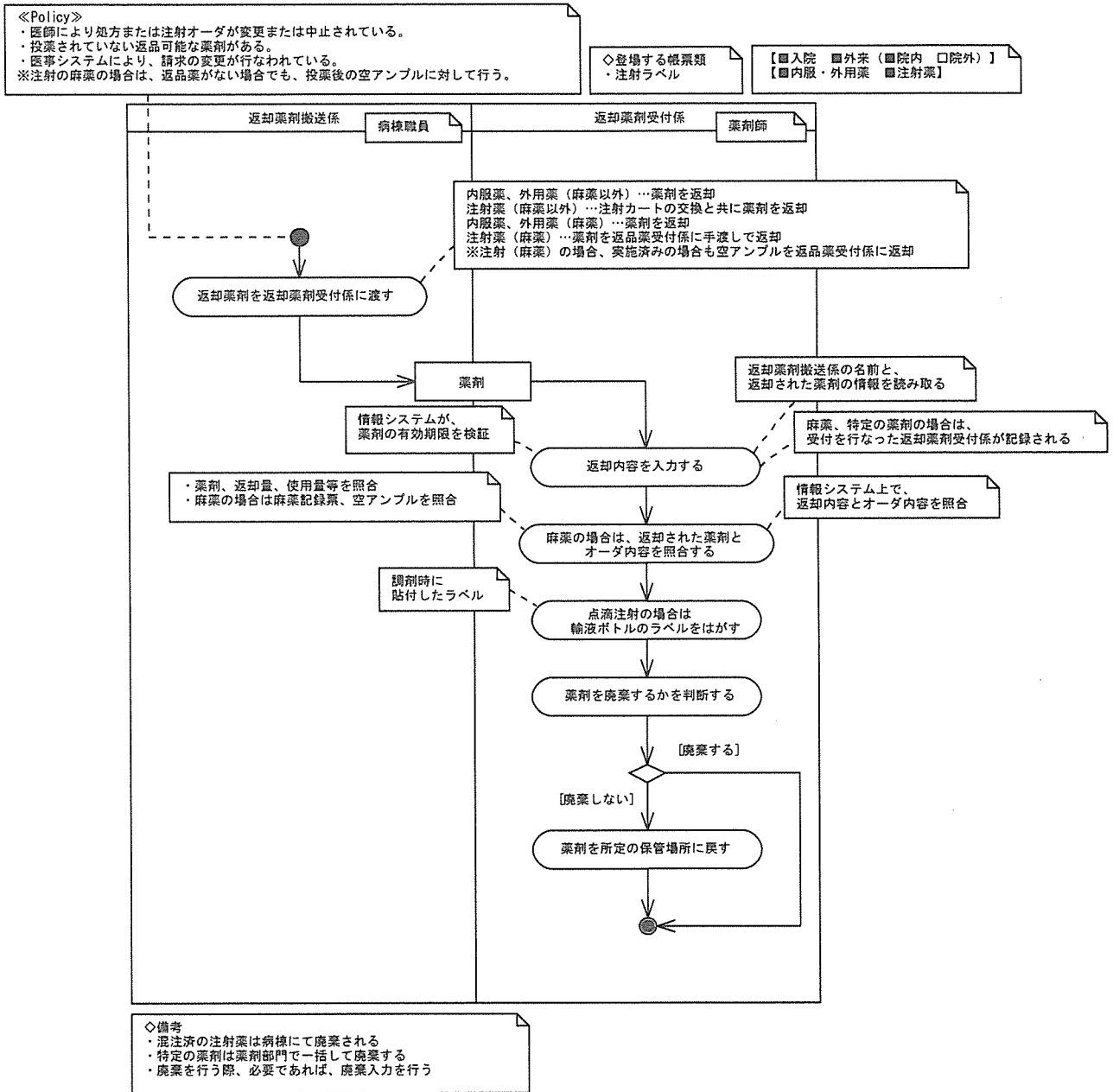
プロセス一覧表（薬剤部門）

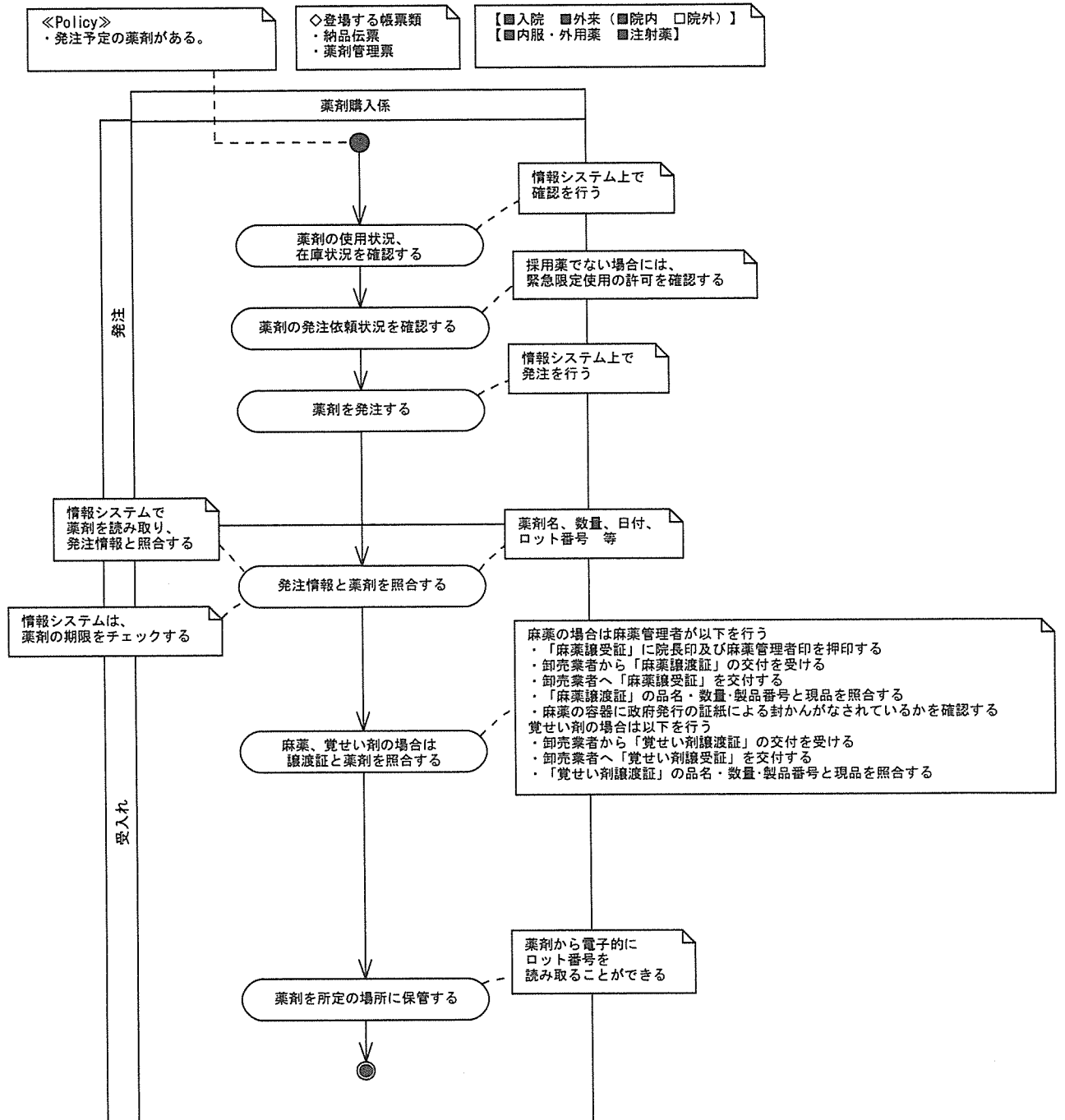
ID	プロセス名
—	—
TP-002	処方鑑査プロセス
TP-003	調剤プロセス
TP-004	調剤鑑査プロセス
TP-005	薬剤返却受付プロセス
TP-006	薬剤購入プロセス
TP-007	薬剤補充プロセス
TP-008	院外薬局疑義確認対応プロセス
TP-009	薬歴調査プロセス
TP-010	薬剤管理指導プロセス
TP-011	新規薬剤院内紹介許可プロセス
TP-012	薬剤採用・中止プロセス
TP-013	緊急限定使用願い申請プロセス



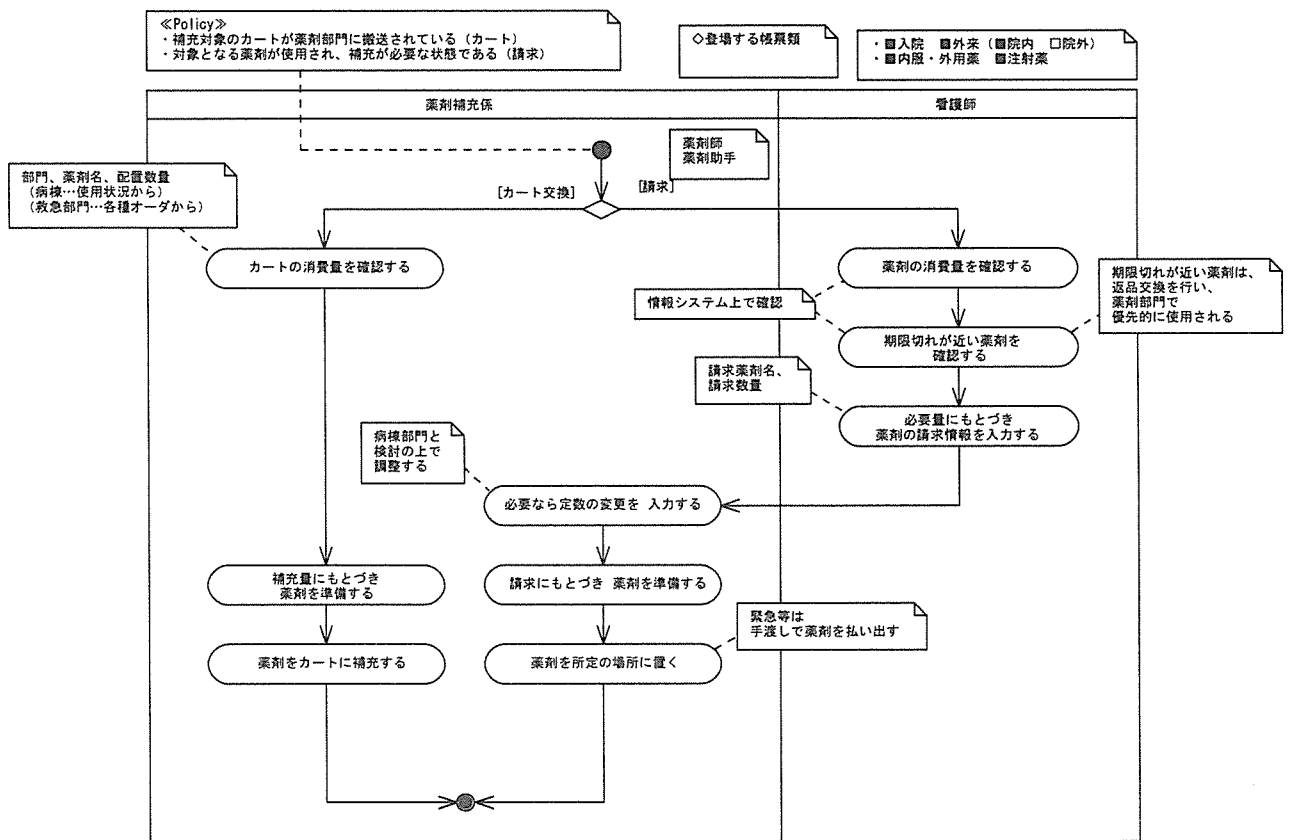




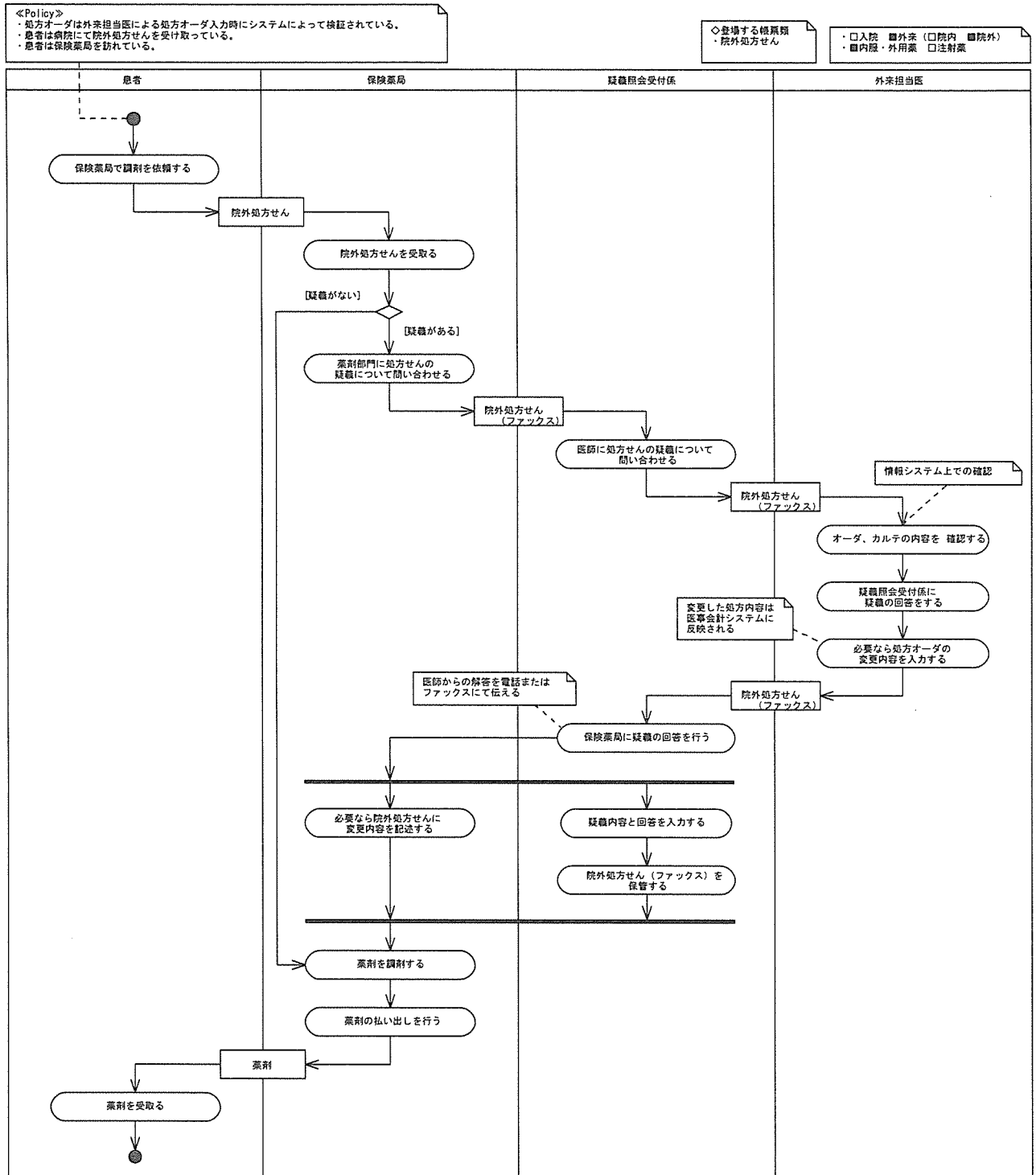


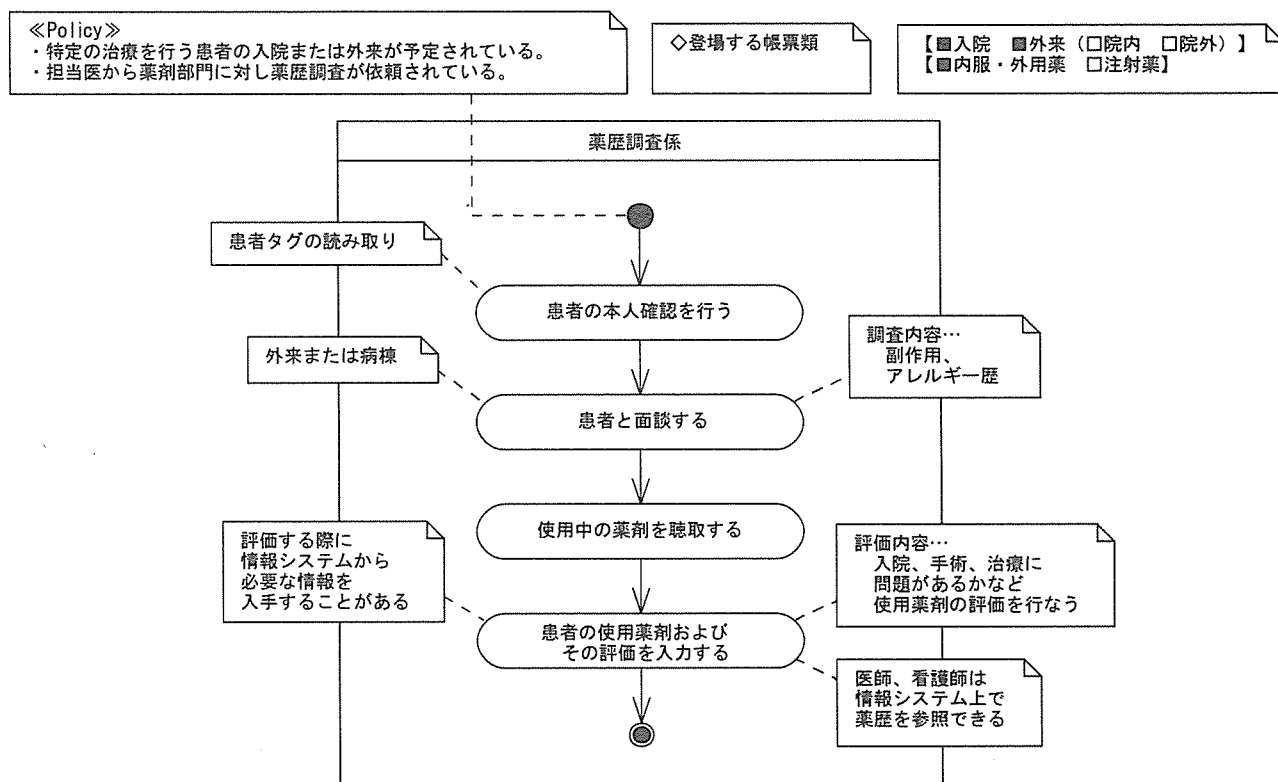


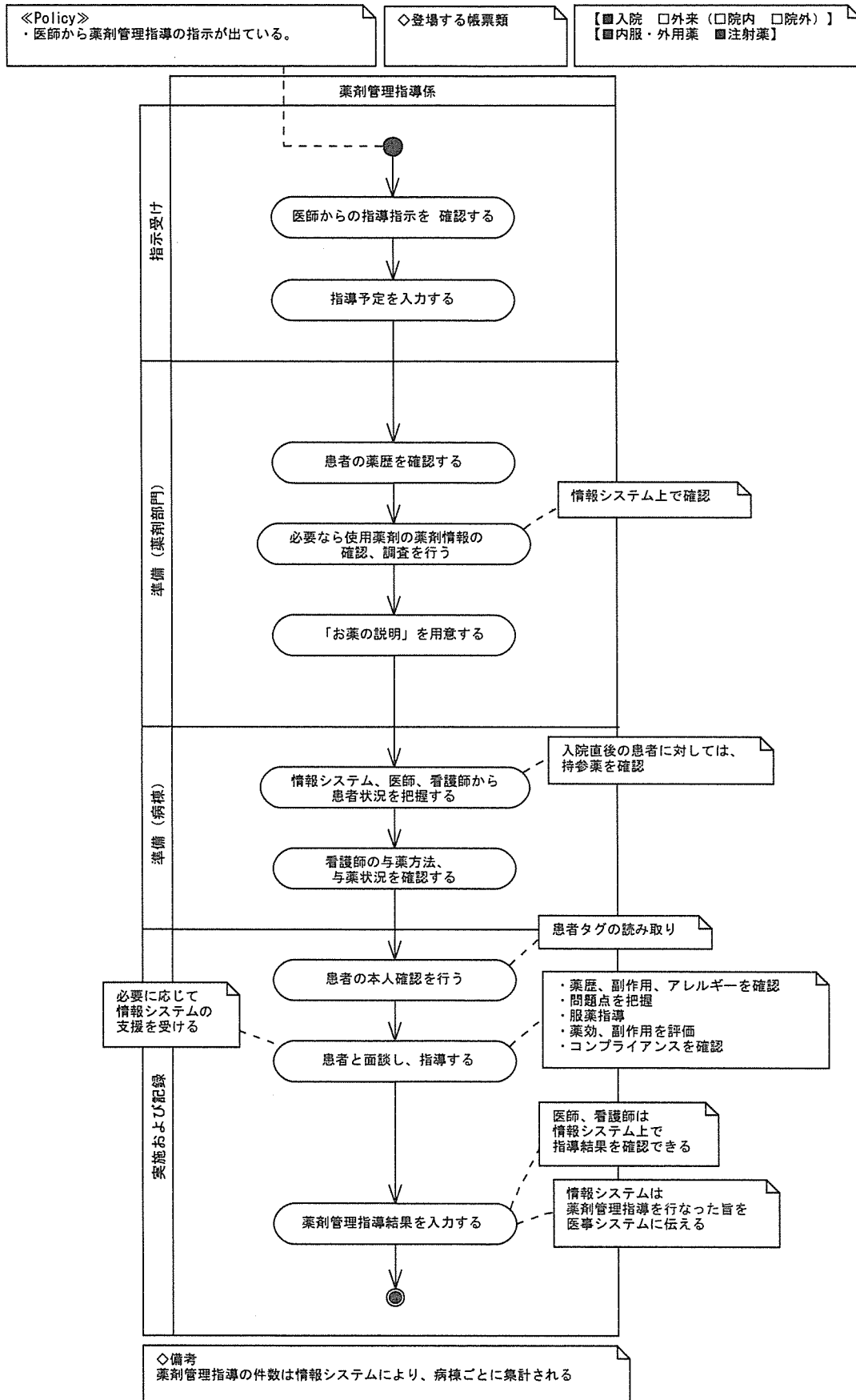
TP-007 薬剤補充プロセス



TP-008 院外薬局疑義照会対応プロセス



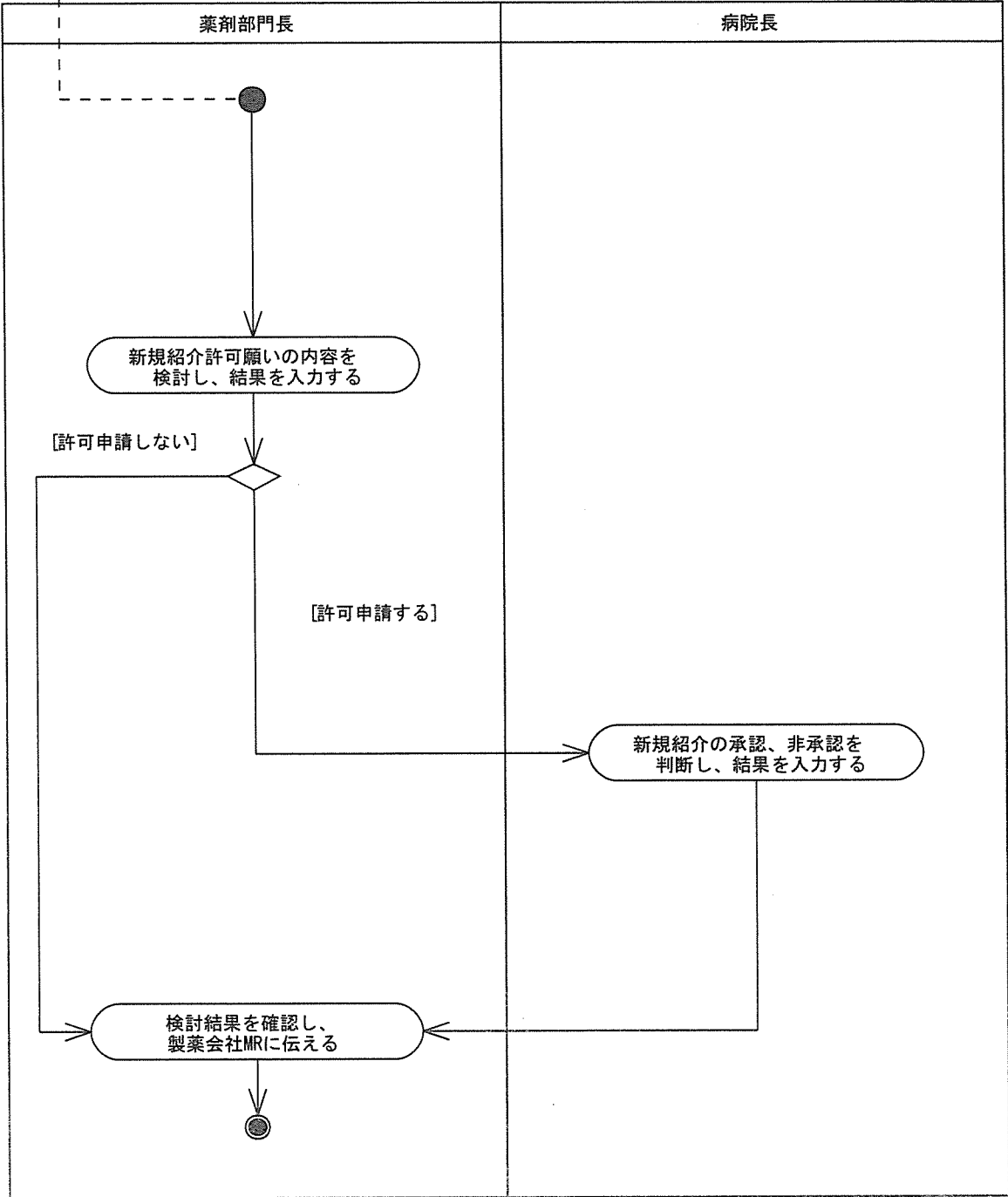




《Policy》
 ・製薬会社MRからの新規紹介許可願いが、
 薬剤部門長に提出されている。

◇登場する帳票類

【入院 外来 (院内 院外)】
 【内服・外用薬 注射薬】



◇備考
 ・製薬会社MRは、紹介許可がおりた薬剤を直接医師に紹介する
 ・医師が、紹介許可された薬剤を採用申請したい場合は、製薬会社MRから情報を得る